

# 謹賀新年



▲地域交流会の皆さまのおかげで、今年も立派な門松が完成しました。おかげさまで無事お正月を迎えることができました。地域交流会の皆さま、ありがとうございました。



(月川ユニット副主任山田繋和)

新年互例会では、入居者たちと職員の前で、辰年の入居者5名が自己紹介や新年の抱負などを語り合いました。笑顔と感謝の交流が広がる新年を迎えました。そして、集合写真も撮影され、笑顔と絆を残すことが出来、最後に甘酒を通じて、入居者や職員たちが笑顔で楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

**今年もよろしくお願ひします**



社会福祉法人  
ひょうご聴覚障害者  
福祉事業協会  
〈発行〉  
特別養護老人ホーム  
淡路 ふくろうの郷  
広報委員会  
〒656-0002  
洲本市中川原町中川原28番地1  
TEL: 0799-25-8550  
FAX: 0799-25-8551  
ホームページリニューアルしました  
順次更新していきますので、よろしくお願ひ致します。



## 年男・年女



**宇都宮愛子さま 84歳**  
3人姉弟の次女として神戸で生まれ、その後、大阪に転居。ろう学校(小学部)に通われていた。

リビングで集まっている時はいつも笑顔で挨拶の手話をされている。笑顔でおいしい食事を楽しまれている。



**藤本紀代さま 84歳**  
前はボランティアの方と旅行へ行き楽しかった。甘い物、餅、にぼしが好き。

「ここでは、皆さん居てるので、安心して暮らせる。皆さんと食べる事が楽しみ。料理講座やおのころパン、とくし丸での買物が楽しみ。コミュニケーションが好き」



**櫻木貞信さま 84歳**  
旅行や闘牛が好き。徳之島に行きたい。外出(ドライブ)する事を楽しみにされている。



**高木妙子さま 84歳**  
ご自分で車の運転をされ活動に参加したり、ご主人と旅行に出掛けられていた。

「他の入居者のお世話がしたい」「お手伝ひします」と職員によく話されている。



**山際サダ子さま 84歳**  
「おしゃべりやカラオケ服が好きで、肝っ玉母ちゃんだった」と娘さまより。

今年の「干支(えと)は？」と聞くと「辰」と答えます。正確にいうと「甲辰(きのえのたつ)十二支が辰であって、昔は十干と十二支を組み合わせて表していました。十干と十二支の組み合わせは六十通り、それが二巡り、暦が元へ還って「還暦」ということです。六十一歳を「本卦還り」と言つのもここからです。何気ない言葉の中にも成り立ちがあり、つづつ日本語は面白いと感じます。

# クリスマス会



12月20日(水)に、クリスマス会をふくろうの郷で行いました。例年ではご家族さまもお誘いして観劇し、その後一緒に昼食されることもありましたが、コロナ禍の為、職員と入居者だけで開催しました。

前日までは各ユニットにクリスマスが近づいていることを知ってもらうために、飾りつけをお願いしていました。入居者さまからは「これは何?」と聞かれることもあり、クリスマスが近づいていることを説明するとご理解して頂き、クリスマス会も開催することをお伝えすると、「楽しみにしています」とお言葉を頂いたこともありました。

(生活援助員 石黒裕規)

いよいよ当日、午前と午後に分けて、各職員の協力もあり、無事開催できました。

皆さま楽しく過ごされ、クリスマスの為、特別な昼食(握りずし)も「おいしい、おいしい」と舌鼓を打たれました。終わったあと



## 全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会にてレポート報告

12月9日(土)10日(日)に埼玉県にて開催されました。各分科会がある中、ふくろうの郷の生活援助係から職員2名が「高齢期を豊かに支える在宅支援、施設の暮らしづくり」をテーマとして、レポート報告を行い、介護士、ケアマネ等と、現在抱えている悩みや取り組みを広く共有することができました。

特に印象に残っている意見として、とある施設では「人生会議」という取り組みを行っているそうです。将来自分達が話せなくなった後のことを見据えて、昔の思い出や家族の事等を入居者同士で話し合い共有してもらおうというものです。思い出の共有という点でふくろうの郷にて実施している「ふくろう物語」と通じるものがあり、さらに入居者(当事者)を交えて話し合うことで今後どうしたいかについてより具体的に考えることのできる良い取り組みだと感じました。

今回の意見交流を通じて感じた事や記念講演にて知った障害者政策の歴史を糧に、これからも一層支援に励んでいきたいと思えます。

(生活援助員 篠倉拓己)

介護職として、今現在の高齢者の状態から支援することが必要ですが、これまで歩んでこられた人生や経験を学んで人生の先輩として尊敬して接していくことが大事です。

記念講演、特別報告にありました障害者権利条約の成り立ち、障害者を取りまく歴史、現在を学んでいくことも大事です。「今回参加して得たことを職場に持ち帰り、活かしてください。また、こうした場に反映してください」と何度も話されていました。これからの介護支援につなげていきたいと思えます。

(生活援助員 酒井英雄)

2024 年を占う漢字は「楽」に決定☆苦しいことの後には楽あり。苦しいことが多くありましたが、2024 年は楽しい一年になりますように☆

▶松栄寺の笹津住職に書いていただきました



## 今年の漢字

# ふくろう物語

## 宮崎 俊弘様



朝食と昼食には必ずトーストとコーヒーを希望されるほどパン好き、肌着は必ず半袖、前髪は額にかからないようにと、自身に色々と「こだわり」を持つ宮崎さまは兵庫県多可郡にて昭和22年2月2日に生まれました。

1歳の時、高熱が原因で失聴してしまいました。

家族は両親と祖父母、妹と暮らしていたそうです。

家族の思い出をたずねると

「両親は自営業の仕事に一生懸命な人だった」「妹は家の仕事を手伝っていた」「祖父母の

ことは家にいたことぐらいしかおぼえていない」と話してくれました。

聴こえなくなった宮崎さまに転機が訪れたということですよ。

隣に住んでいた方がバスの運転手で姫路聾学校（現在の姫路聴覚特別支援学校）のことを教えてもらい、実家を離れ姫路聾学校へ入学、寄宿舎での生活が始まりました。

学生時代、寄宿舎での生活のことを尋ねると「寄宿舎で同級生と一緒に生活して勉強した」と話してくれましたが、それ以上の思い出は聞けませんでした。

### 卒業後、家を支える

19歳の時、父親が亡くなりました。

高等部卒業後、西脇市の「八大繊維」に就職。家計を支えていました。

20歳〜24歳まで勤め、仕事内容が合わず退職されました。

3年後、再び「八大繊維」に就職、自分からもう一度働きたいと願っていたそうです。

荷物運搬、資材梱包など力仕事を任されていました。

このころ「北播聴覚障害者協会」の役員など活動を始められました。

### 災難・不幸から

32歳ごろ、職場の階段で足を滑らせて荷物ごと転落。腰を強打し入院することになり、仕事が続けられずそのまま仕事に行かなくなっていました。

その後は家業を手伝い、「あすなる作業所」への通所が始まりました。

平成23年には支えてくれていた妹様が病没されてしまいました。

令和4年4月、車いすから立ち上がった際に転倒され、入院。在宅での生活が困難になったことで同年7月、淡路ふくろうの郷へショート入所を経て令和5年2月海ユニ

ットへ長期入所となりました。

### 入居されてからの生活

日中は居室でもリビングでもテレビを観て過ごされる事が多い宮崎さま。

昨年、応援している阪神タイガースがリーグ優勝、日本一になった時には大変喜ばれていました。

歩くことができていた時には甲子園まで野球観戦に行っていたそうなのでとても喜ばれていました。

ふくろうの郷で喜寿を迎えられ、ふくろう祭りで入居者、職員からお祝いされました。

11月には聾学校時代の同級生5人がふくろうの郷まで会



▶ 姫路聾学校の同級生と



▲ふくろう祭りで喜寿の祝いの記念撮影 小林理事長(右)と狭間施設長(左)

いつもご支援ありがとうございます。  
地域交流会の宇城守様より柚子を頂きました。  
湯船に浮かべて入浴を楽しみました。

いに来てくださり、中にはコロナ禍で会えなくなっていたため、宮崎さまが入所されていたことを最近まで知らずいた方もいらつしやいました。久しぶりの再会には宮崎さまも涙を流され大変喜ばれていました。  
これからも宮崎さまには寛いで自分のスタイルで生活を送って頂けるよう支えてまいります。(生活援助員 神代雅司)

**淡路聴覚障害者  
センター便り**

**手話奉仕員養成講座  
集中講座**

12月3日の手話奉仕員集中講座は洲本市総合福祉センターで「聴覚障害者の福祉制度」「盲ろう者とは」の2コマ開催し、島内4会場から21名の受講者が参加しました。

洲本市港 2-26  
洲本市健康福祉館 3階

**手話奉仕員養成講座  
集中講座**

12月3日の手話奉仕員集中講座は洲本市総合福祉センターで「聴覚障害者の福祉制度」「盲ろう者とは」の2コマ開催し、島内4会場から21名の受講者が参加しました。



▲視野狭窄の疑似体験をする受講者

**■盲ろう者とは**

ひょうご盲ろう者支援センターの方から視野狭窄の疑似体験や盲ろう者のサポート体制について説明していただき

センター吉川ろう相談員よりテキストのDVDを見て、聞こえる人との生活の違いや工夫について話をしました。また盲ろう者の奥井大氏から、生い立ちについて

「日常生活用具はいろいろあって工夫しているのがすごい」「DVDを見て学校や会社で少しの心配りがあるだけで障害者が暮らしやすくなること

が「盲ろう者の移動、情報収集理解できた」「私たちが理解すること、周りの人に理解を求めることが大切だと思った」との意見がだされました。



**それって悪徳商法ですよ！**

**第7回社会生活教室**

洲本市の消費生活センターの出前講座を利用し、開催。消費生活相談員の吉岡牧氏にお話しいただきました。

最初は「契約」行為について。一度契約すると簡単に返品できないこと、しかし訪問販売やマルチ商法で買ったもの、無理やり屋根や水周りの修理を勧められ、法外な金銭を要求されたりしたものなどは、クーリングオフの制度で取り消しできるとの説明がありました。

スマホで健康食品のお試しと申し込むと定期購入に繋がっているなど、健康でいたい、とくしたいなどの気持ちに付け込み、次々と手を変え、品を変えて買わそうとするなど、消費者トラブルは後を絶たない、特に高齢者が狙われやすいということです。

参加者は、通信販売を利用されている方も多く、届いても思っていたのと違う、効果がない、買って使わない、しかも解約に四苦八苦された経験をした方も多く、買うときは慎重に気を付けなければ、と講師の話にうなづいておられました。(酒井)

「通訳、介助員が少なく、多くの盲ろう者がまだまだ社会生活が困難な状況におかれていることを知った」「触手話の習得は大変で支援する側、支援される側も大変な苦労があることを知った」「盲ろう者が見えない、聞こえない中で、色々支援を受けながら活動されていることに感動」など感想が寄せられました。



▲触手話について話す奥井氏

**第16回みんなあつまれ！輪っはっは♪**

12月23日：中川原ふれあいセンター

今回は1家族3名の参加でしたが、クリスマスツリーを一緒に作ったり、ケーキを食べながら来年度について意見交換しました。

外出する機会も限られるので、公園に出かけたり、パン作り体験や保護者同士のつながり作りがしたい、とのご意見をいただきました。イベントや聴覚障害児・者が利用している事業所の見学などの情報提供も行いながら、参加してもらいたい日程や内容について考えていきたいです。(瀬田)



# あけましておめでとございます

中川原高齢者・障がい者地域  
ふれあいセンター



☎ 656-0002  
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2  
TEL 0799-28-0990  
FAX 0799-28-0992



## 「クリスマスツリー」の 大作が完成しました

12月25日(月)、クリスマス  
の絵が完成しました。室内班  
利用者の皆さんが自分の作業  
の間を使って参加して下さ  
り11月の終わりから始めた  
のですが1ヶ月かけることな  
く完成することが出来まし  
た。クリスマスの絵はツリー、  
ローソク、プレゼントの箱、  
リース、靴下に普段の作業で  
作っているヨーヨーキルト、  
花、花びら、組みひもを使用  
して仕上げるものが出来まし  
た。華やかで綺麗な絵になり  
ました。貼り付けに参加して  
下さった室内班利用者の皆さ  
んに感謝です。

利用者の赤井さんの役割  
は、リングと靴下の部分にヨ  
ーヨーキルト、花、花びらを  
貼っていました。キラキラし  
ているツリーを飾ってとても  
綺麗です。

第27回全聴福研  
(埼玉)に参加して  
12月9日(土)・10日(日)2  
日間、埼玉県にて全国聴覚言語  
障害者福祉研究交流集会在4  
年ぶりに集合形式にて開催さ  
れました。記念講演・特別報告  
の後、入門講座・分科会が行わ  
れました。私は第2分科会「発  
達を支える(労働・発達・ここ  
ろから)の健康・集団作り」  
に参加しました。大阪府・京都  
府・埼玉県・兵庫県の事業所・  
施設から8名のレポート報告  
があり、それぞれの取り組みや  
抱えている問題・課題をお聞き  
し、色々考えさせられました。  
また、自身のレポート報告に対  
して共同研究者の方や同じ分  
科会に参加している皆様から  
意見や事例などをお伺いする  
事ができました。2日目のグ  
ループディスカッションでは  
さらに深く情報交換を行うこ  
とができました。沢山のことを  
学んだ2日間になりました。  
今後の支援に繋がって行きた  
いと思います。(山田 裕美)

今回7年振りに参加させて  
いただきました。日々現場で奮  
闘されている方々の実践報告  
の内容はもちろん、参加者同士  
の交流でも良い刺激を受けた  
2日間となりました。  
来年は兵庫開催。来てくださ  
る全国の皆さんに、次は我々が  
良い刺激を与えることができ  
るよう集会を目指したいと思います。  
(濱田 良介)

## 「門松・色紙」に感謝



恒例のレク活動を実施した  
門松作り、地域の方からの色紙  
を作品した辰年をいただき、あ  
りがとうございます。

今年もよろしくお願いた  
します。(おのころの家 橋詰)

# 神戸長田ふくろうの杜

兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1  
〒653-0836 電話：078 798 7940  
FAX 078 798 7941

## 謹賀新年

今年もよろしくお願ひします

昨年11月3周年を迎えました。

「神戸長田ふくろうの杜」はB型作業所及び食堂、生活介護、放課後等デイサービス、相談支援の障害者事業、介護保険デイサービス、神戸市の独自事業である生きがいデイサービスの高齢者事業の6事業と兵庫区にありますグループホーム「神戸平野ふくろうの樹」と神戸を拠点とする法人の7事業は年末年始、利用者、職員のインフルエンザなどの風邪症状の広がりの中、令和6年は1月4日から始動しています。

昨年の3周年記念行事は、各事業の様子を利用者さん達の声を交えての報告と、お楽しみイベントの庄崎隆志氏のパフォーマンス、ろう者太鼓集団「鼓神」、三田宏美氏のサインダンスで、参加の皆様楽しんでいただきました。来賓として日ごろ関りのある、地域のまちづくり協議会の会長を始め、長田区行政や社会福祉協議会など16名の皆様が臨席してくださいました。

地域のふれあい祭りや防災訓練への実務委員としての参加、月2回の防災のためには作られた人工川「せせらぎ」のお掃除、毎月の防犯パトロールや歳末パトロール、週3回の市花壇の水遣り、B型事業として東隣の市営住宅の清掃請負、また、1階の食堂では地域の高齢者のご注文にお応えしてお弁当の配達など3年の間にいろいろな立場で地域の一人として関りを深めてきました。来店される地域の方が「ありがとう」「おいしかった」と手話で話しかけてくださるなど、聴覚障害者施設として「ふくろうの杜」を理解していただくようになりました。また、まちづくり協議会などでは「杜さんはどう!？」と意見を聞いてくださるようにもなりました。

昨年11月に長田区社会福祉協議会より、この地域で「こども食堂」をやりませんかとのお声掛けもその一つです。私たちはそのご提案を令和6年に向けての新たな役目と目標をいただいたと真摯に受け止め、前向きに進めていきたい。そして地域の「居場所」「よりどころ」となれるように、社福の理念である「一人ひとりを大切に共に生きる」を実践していきたいと、新年に当たって、改めて痛感しています。今後も温かい目で見守り、ご指導ご鞭撻いただきますよう、皆様よろしくお願ひいたします。

眞木 崇江

## クリスマス会を開催

12月15日に就労継続支援B型と生活介護でクリスマス会を開催しました。

11月のなかま相談で食べるものやゲームの相談をしました。当日の買い物や会場の飾りつけなど役割分担をしながら職員と利用者と一緒に準備を行いました。

今回は、1階の食堂は臨時休業として、職員も利用者も全員で楽しもうということでした。メニューは、お寿司とオードブルです。みなさんのリクエスト通り内容で、「おいしい」とみなさん喜んでくださいました。



↑お寿司とおードブルで舌鼓



↑ビンゴゲームでプレゼント!!

午後からは、2階に移動してゲームを行いました。まずは「伝言ゲーム」を行いました。「煙突から落ちたサンタクロース」という言葉でしたが、意外と難しくうまく伝わらず、「難しい」との声が聞こえました。

その後は、ビンゴゲームを行いました。数字ではなくて果物の名前で行いました。あたりの方から待望のプレゼントをお渡ししました。ネットワークウォーマーなど生活に使えるものをもらって、「よかった」と喜ばれました。

今後も、仕事も頑張りながら楽しめる行事を企画していきたいと思ひます。

(神戸長田ふくろうの杜 竹原 哲章)